

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

ボイラー燃料のガス化と

潜熱回収ボイラー導入による CO2 削減事業

排出削減事業者名：株式会社天一食品商事

排出削減事業共同実施者名：株式会社三井住友銀行

その他関連事業者名：株式会社トリリオン

## 目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	認証国内クレジット量	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	6

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社天一食品商事
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	スパリゾート雄琴あがりゃんせ
住所	滋賀県大津市苗鹿 3-9-5
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	株式会社三井住友銀行
その他関連事業者	
関連事業者名	株式会社トリリオン

（注）その他関連事業者とは、排出削減事業共同実施者とは別に、排出削減に寄与する設備機器の生産・販売者、国内クレジットの創出コストの低減を図る事業の集約を行う者等をいう。

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

ボイラー燃料のガス化と潜熱回収ボイラー導入による CO2 削減事業

### 2.2 排出削減事業の目的

本事業は、ボイラー燃料を A 重油から都市ガス（13A）へ変更し、潜熱回収型の高効率ボイラーへ更新する事で燃料の使用量の削減と CO2 の排出量の削減を図る。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在設置されている、重油焚温水ボイラーを高効率ガス焚潜熱回収型温水ボイラーへ更新。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2009 年 3 月 3 日

#### 3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2009 年 3 月 3 日 ～ 2009 年 5 月 31 日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

##### 4.2.1 活動量・原単位

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

潜熱回収ボイラー×2 台、蒸気ボイラー×2 台

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
M-1a	事業実施後燃料使用量 (温水ボイラー)	千 Nm <sup>3</sup>	50.93	個別メーター	
M-1b	事業実施後燃料使用量 (蒸気ボイラー)	千 Nm <sup>3</sup>	32.83	個別メーター	
M-2	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/千 Nm <sup>3</sup>	44.8	デフォルト値	
M-3	事業実施後のボイラー効率	%	93%(温水)、 81%(蒸気)	カタログ値 (高位発熱量ベース)	
M-4	事業実施前のボイラー効率	%	79%(温水)、 81%(蒸気)	カタログ値 (高位発熱量ベース)	
M-5	事業実施前の燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0189	デフォルト値	

## 6 モニタリング体制

排出削減事業計画 7.2 参照

### 6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順（該当手順の無い場合、その理由を記載すること）
活動量	
事業実施後燃料使用量	個別メーターにて測定 個別メーター合計値と取引メーターで誤差を確認 設備担当者が保管
事業実施後のボイラー効率	カタログ値を確認 設備担当者が保管（高位発熱量ベース）
事業実施前のボイラー効率	カタログ値を確認 設備担当者が保管（高位発熱量ベース）
単位発熱量	
事業実施後燃料の単位発熱量	該当文献を確認し、採用している数値の確認 設備担当者が保管
排出係数	
事業実施前の燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	該当文献を確認し、採用している数値の確認 設備担当者が保管
事業実施後の燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	該当文献を確認し、採用している数値の確認を行うこと 設備担当者が保管

## 7 認証国内クレジット量

### 7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
50.93 千 Nm3 (温水ボイラー)	44.8GJ/千 Nm3	0.0138tC/GJ	115t-CO2
32.83 千 Nm3 (蒸気ボイラー)	44.8GJ/千 Nm3	0.0138tC/GJ	74t-CO2
EMPj			189t-CO2

### 7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
59.96 千 Nm3 (温水ボイラー)	44.8GJ/千 Nm3	0.0189tC/GJ	186t-CO2
32.83 千 Nm3 (蒸気ボイラー)	44.8GJ/千 Nm3	0.0189tC/GJ	101 t-CO2
EMBL			287t-CO2

### 7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			

### 7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EMBL	189t-CO2
事業実施後排出量 (7.1)	EMPj	287t-CO2
リークージ排出量 (7.3)	LE	
温室効果ガス排出削減量	ER	98t-CO2

## 8 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースラインー実績 (①ー②)
107.21	96.78	10.43